

中長期目標 (学校ビジョン)	(1) 道徳教育の充実 ・高校生として望ましい規範意識、生活習慣を確立する。 ・自己肯定感を高めるとともに、他者に対する思いやりなど、周囲と豊かな人間関係を構築することのできる豊かな心を育む。 (2) キャリア教育の充実 ・社会的問題に関心をもち、社会の一員であることを自覚させる。 ・探究活動をおして、社会的問題の解決に向けて必要となる能力を育成する。 ・将来の生き方を前提とした進路指導を展開する。 (3) 高い志を有し、学ぶ意欲を向上 ・将来の生き方を考えさせることで主体的に学ぶ姿勢を涵養するとともに、社会問題の解決に向けて必要となる確かな学力を育成する。 ・授業をおして論理的思考力、表現力、コミュニケーション能力を高める。	今年度の 重点目標	(1) 将来を見越した生活習慣の確立 (2) キャリア教育の充実 (3) 主体的な学習姿勢の構築、及び学力の向上 (4) 情報収集、情報発信の充実 (5) 学校業務改善の取組の推進
-------------------	--	--------------	--

年 度 当 初				評 価 結 果 () 月			
評価項目	評価の具体項目	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
将来を見越した生活習慣の確立	① 社会や人とのつながりを意識した生活習慣を身につける	【生活支援】 ・全般的に挨拶はできている。特に、野球部の立ち止まってるの挨拶は、外部からも好評である。 ・授業や集会での聴く姿勢が良い。講演を受けて自分の生活や行動につなげる姿勢に乏しい。 ・自分の置かれている状況や立場を考えて行動できない場面がある。	・自然に自分から好感の持てる挨拶ができる。 ・授業や集会などで顔を上げて、きちんと話を聴くことができるとともに、積極的に自ら発言をすることができる。 ・TPOを意識した行動をとることができる。 ☆日常的な生徒観察により評価する。 ☆は評価の方法(以下同じ)	・積極的、意欲的な行動や姿勢をとった生徒を褒めて育てる。 ・挨拶することの意味をステージやホームで繰り返し話すことで伝える。 ・授業も含め日常的に発言できるように、生徒が発表する機会を数多く設定する。 ・次なるステップが自分で明確にできるよう、メモや記録化で指導する。(生徒手帳の復活)			
	② 講演会・生徒会活動等を通して人としての生き方を学ぶ	【生活支援】 ・生徒会の行事、委員会等各種活動に積極的に取り組んでいる生徒が多い。 【S1】 高校3年間で何を学び、将来どうやって社会に貢献していくかという明確なビジョンを持っている生徒は少ない。	・多くの生徒が生徒会の行事、委員会等各種活動に積極的に取り組んでいる。 ☆行事反省、委員会の振り返り等で評価する。 ・将来学びたいことが明確になり、そのために今、何をすべきか判断し、行動することができる。 ☆CHALLENGE NOTE等による観察で評価する。	・生徒会の行事、委員会等各種活動を通して、生徒が責任を持って主体的に取り組むことに喜びや達成感を持てるよう寄り添いながら指導する。 ・様々な講演会や諸活動に意図的に取り組ませ、感想や気づきを継続的に記録し、振り返りながら、自らの生き方について考えさせる。			
	① チャレンジグループ活動の情報収集～整理・分析～発信のスパイラルを確立し、個人研究を充実させる	【キャリア支援】 ・CHALLENGE NOTEを活用し、活動を記録している。 ・成果を発表する機会が増え、生徒同士の評価や研究の深化につながっている。S1・S2の生徒は、発表を聴いて学んだことを自らの研究活動に活かしている。 ・大学訪問や講演会等を通して、大学入試制度など進路への理解が深まっている。 ・合格者や卒業生の体験談を聴き、進路意識やチャレンジグループ活動に対するモチベーションが高まっている。 【S1(パイオニアホーム含む)】 ・チャレンジグループ活動に積極的に取り組みたいと考えている生徒は多い。 【S2(パイオニアホーム含む)】 ・S1次に決定した研究テーマをもとに、情報の収集、分析方法について検討し、計画的に探究活動を進めようとしている。 【S3(パイオニアホーム含む)】 ・S2次早々に決定したテーマに沿ってフィールドワーク等を行い、レポート作成に取り掛かっている。 ・進路と関連させて探究を深めている。 ・S2次の西京高校との交流によって、視野が広がり問題意識が高まってきている。	・ノートに内容や感想を主体的に記録する習慣が身についている。 ・大学・学部、職業に関する理解を深め、テーマ設定や研究活動が自らの進路につながっている。 ・フィールドワークなどの研究成果をまとめ、情報機器を活用して校内の発表に限らず校外でプレゼンテーションを行っている。 ☆S3のチャレンジグループ活動のアンケートにおいて、「積極的に取り組めたか」、「講義や施設見学により仕事や施設の役割などの理解を深めることができたか」、「さらに学びたい、知りたいなどの知的好奇心が高まった」、「進路目標が決まったり、目標に対する情熱が高まったなど、影響を与えた」の各質問項目いずれにおいても、6割以上の生徒が「とても思う」と回答している。	・テーマと進路がつながる指導をするために、大学の学部や研究に関する情報を提供する。 ・各ステージと連携して講演会などの企画の調整を図り、円滑な運営と目的の遂行に努める。 ・大学での学びとチャレンジグループ活動について、卒業生の話を聴く機会を設定する。			
キャリア教育の充実	② 地域社会の問題に関心をもち、アウトプット能力を向上させる	【S1】 ・ボランティア活動の目的を理解して、自ら進んで行動していこうとする姿は多い。	・自らの明確な意思でチャレンジグループを決定し、個人研究テーマを設定している。 ☆CHALLENGE NOTE等による観察で評価する。 ・探究活動をおして、研究テーマに係る問題意識を育み、その解決に向けて情報収集、整理・分析し、多角的に方策を考えている。 ☆CHALLENGE NOTE等による観察で評価する	・適宜個人面談を実施し、活動の進捗状況を把握するとともに、助言を与える。 ・生徒が「社会貢献」という大きな目標を見失わないよう、生徒の表情や行動に目を向け、声を掛けるタイミングを逃さないようにする。			
	① チャレンジグループ活動の情報収集～整理・分析～発信のスパイラルを確立し、個人研究を充実させる	・充実した内容の発表や報告書を完成させ、活動終了後は、希望の進路実現へと繋げている。 ・チャレンジグループ活動を通して、自らの進路目標を明確にし、将来、社会に貢献していく態度を身につけている。 ☆【キャリア支援】に同じ	・ガイダンスでボランティアの取り組みを説明し、さらにボランティア活動参加前の事前指導を行い、学び・気づき・課題・解決策などを記録し、ホームで発表する。				

評価項目	評価の具体項目	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
主体的な学習姿勢の構築、及び学力の向上	①深い学びへのプロセスやICTを取り入れた授業改善を行う	【学習企画】 ・授業を大切にする生徒の意識が高まり、教員の設定した目標に主体的に取り組む土壌ができつつある。 ・学習習慣の定着は生徒による個人差が大きい。 S1:家庭学習時間2時間以上は前期継続的に70%を超えたが、後期調査時期を除いて未達成(通年平均79%) S2:同上2時間半以上達成は調査時期のみ(通年平均55%) S3:同上5時間以上37%(ただし、7月以降) いずれも目標は達成していないが、数値は一昨年度より向上している。 ・iPadなどICT機器を取り入れた授業も増えてきているが、効果的な活用について今後も研究を必要としている。またICTを活用する環境整備にも工夫改善が必要である。	・生徒自身が考え、表現する機会をさらに増やすなど生徒の自発性、積極性を引き出す授業を行い、生徒のアウトプットの機会を増やす。 ・授業に主体的に参加するために、実のある主体的な家庭学習を行う時間が確保できている。 ・客観的な思考及び判断ができる。 ☆生徒授業アンケート:1~5の各項目について、前年比10%アップまたは80%以上。 家庭学習時間の目標値 S1:2時間以上の生徒が継続して70%以上。 S2:2時間半以上の生徒が継続して70%以上。 S3:県総体後5時間以上の生徒が50%以上。 ☆生活の軌跡の記録で評価する。	・校内研究授業を実施し、授業後には教員全員参加の研究協議を行って工夫した点や成果についての情報共有を行い、得たものを授業で活用し、生徒に還元していく。 ・調査の問題も「思考」「判断」「表現(論述)」を意識した出題につとめる。 ・授業づくりのヒントとなるように、ICTを使った授業実践の動画等のデータを蓄積していく。 ・生活の軌跡を利用して面談を実施する。 ・具体的な生活時間を提示する。			
	②高い志の実現に向け、予習・授業・復習のサイクルを確立する	【S1】 学力を高めたいという思いはあり、与えられた課題には積極的に取り組めるが、各自が工夫した学習にはなっていない。 【S2】 ・多くの生徒の学習習慣は定着しつつあり、与えられた課題に対しては取り組むことができているが、自ら計画を立て、工夫して学習に取り組む生徒は少ない。 【S3】 ・受験を控え、希望の進路を実現するために向学心が高まってきている。 ・休憩時間や放課後等に生徒同士で教え合っている姿が頻繁に見られる。	・常に向上心を持ち、家庭学習を定着させ、定期考査や模試を節目に、PDCAサイクルを意識した実践をする。 ☆【学習企画】に同じ	・担任、教科担当者が面談等の機会をとらえながら、丁寧に個別指導を行う。			
	③校外模試成績を含めた学力を向上させる	【キャリア支援】 ・各教科の模試分析をもとにS1・S2拡大ステージ会を行い、課題・対策の共有を図っている。 ・模試に向けて、各教科で課題やテスト等に計画的に取り組んでおり、生徒の目的意識や意欲は徐々に高まってきている。 ・受験後、自己採点や見直しなどの指導をし、「受験→見直し・自己分析→次回への目標設定と対策」のサイクルを習慣化するよう取り組んでいる。 ・長期休業中課外、放課後センター演習、2次課外により学力向上を図っている。 【バイオニアホーム(他ホームに広げることを含む)】 【S1】 ・学習意欲は高く、課題に対して熱心に取り組む、期限を守って提出できる生徒が多い。 ・学習習慣と学力とのバランスが取れている生徒が多い。 【S2】 ・勉強と部活動の両立に努力しているが、生徒会活動に積極的に取り組んでいる生徒は少ない。 【S3】 ・各自がバイオニアとしての自覚を持ち、主体的に学習や学校行事、部活動に取り組む、人間の成長が見られる生徒が増えている。 ・学習習慣も定着してきており、放課後に残って学習したり、他ホームの生徒とも教え合いが出来ている。	・全教員が生徒の学力を把握し、課題や取組み等の情報を共有し、全体指導や個別指導など必要な対策を講じる。 ・模試の取組みについても、PDCAサイクルが確立されている。 ☆S1:7月進研模試の結果に基づき実態に応じた目標値を設定。 ☆S2:1月進研模試の3教科の平均偏差値が48以上。 ☆S3:センター試験540以上(900点満点)の生徒が30名以上。 センター試験を利用した国公立大現役合格者(推薦Ⅱ、AOⅡ、一般)30名以上。	・模試の目的と意義を生徒に理解させ、目標をもって取組ませる。 ・大学入試制度の変更に備え、情報収集に努めるとともに、拡大ステージ会の在り方を検討し内容の充実を図る。			
	情報収集、情報発信の充実	【総務】 ＜ホームページの運用＞ ・更新件数は大幅に増加している。 (更新件数:平成29年度194件→平成30年度675件) ・アクセス数は前年度より減っている。 (平成29年度約297,400件→平成30年度約233,213件) ＜季刊倉西・倉吉西高通信の刊行＞ ・時期をずらして内容を考慮し、年4回ずつ刊行している。 ＜ミッタシステムの運用＞ ・保護者の登録率は97%。 (登録切れの保護者への再登録、未登録の保護者への呼びかけを年3回行った。) ＜中学生体験入学・中学校での高校説明会＞ ・体験入学では、2日間で284名が参加し、99%が「参考になった」と回答。 ・各中学校で3年生への説明会を実施した。(6月)	＜ホームページの運用＞ ・生徒の活動や必要な情報が適宜、掲載されている。 ・担当した行事、部活動の様子を教職員が速やかに掲載している。 ・学校の情報がわかりやすく伝わるようにする。 ☆ホームページ更新件数:250件(前年度並みの指標とする) ＜季刊倉西・倉吉西高通信の刊行＞ ・保護者に学校並びにPTAの活動や方針等を適宜、伝える。 ☆季刊倉西4回、倉吉西高通信4回刊行。 ＜ミッタシステムの運用＞ ・漏れなく緊急連絡を行うことができる。 ☆保護者の登録:100%。 ＜中学生体験入学・中学校での説明会＞ ・中学生や保護者が倉吉西高の情報を持っている。 ☆中学生体験入学の参加者アンケートの満足度:90%以上。	＜ホームページの運用＞ ・内容を考慮し、保護者等が求める情報を載せるようにする。 ・担当した学校行事、部活動の様子を速やかに掲載できるように、適宜、担当教職員・部活動顧問への掲示呼びかけを行う。 ＜季刊倉西・倉吉西高通信の刊行＞ ・年間計画を立て、季刊倉西では学校から保護者宛のメッセージを、倉吉西高通信ではPTA活動の紹介と参加呼びかけを主とした紙面とする。 ・季刊倉西を見やすい印刷にし、確実に保護者に届くようにする。 ＜ミッタシステムの運用＞ ・未登録の保護者への登録呼びかけを行う(4月・7月・12月の3回)。 ＜中学生体験入学・中学校での説明会＞ ・チャレンジグループ活動の発表を充実させ、倉吉西高の魅力が伝わるようにする。 ・体験入学は保護者にも参加を呼びかける。			
学校業務改善の取組の推進	・目的が重複する行事やその準備等が、勤務時間の長大化につながっている。 ・休養日などを設定した各部の活動方針が徹底されていない。	・優先順位の低いものについて1つ以上の業務削減。 ・年間の時間外業務を平成29年度比で20%削減。 ・休養日、活動時間を設定した活動方針の全部活動への徹底。 ・部活動に係る時間外業務80時間以上勤務者の解消。	・優先順位の低い行事の整理・統合を進める。 ・管理職員が各部の休養日、活動時間を把握し、遵守を働きかける。 ・顧問体制の柔軟な運用を認める。				